

“抗がん剤治療による吐き気止めとしてオランザピンを処方された患者さんへ” 2026 年版

糖尿病またはその既往のある患者さんにも「シスプラチンなどの抗がん剤治療に伴う吐き気・嘔吐」に対してオランザピンを使用できるようになりました。ただし、統合失調症などの他の効能では禁忌のままですのでご注意ください。

オランザピンは抗がん剤治療を受けている患者さんを対象に行われた臨床試験の結果で、吐き気・嘔吐を軽減する効果があることが確認され、2017 年に抗がん剤による吐き気・嘔吐に対して保険適用となり日常診療で使用されています。これまでは糖尿病またはその既往のある患者さんにオランザピンを吐き気止めとして使用することができませんでしたが、このたび糖尿病またはその既往のある患者さんにも使用できるようになりました。その場合、以下の点に十分注意して服用頂く必要があります。

● オランザピン服用期間中の注意事項

・糖尿病または過去に糖尿病といわれたことのある方が、この薬を服用する場合は、入院での抗がん剤治療が必要です。

・入院期間中は必要に応じて 1 日 3～4 回の血糖測定やインスリンを使用しての血糖管理を行うことがあります。

・オランザピンを吐き気止めとして服用する場合の期間は 4 日間が一般的です。

● オランザピン服用終了後および退院時の注意事項

オランザピンの服用終了後、退院後に一時的に血糖値が高くなる場合があります。血糖値が高くなると、次のような症状があらわれる場合があります。

・ご自宅で自己血糖測定ができる方は入院時に血糖管理が必要となった血糖値や普段よりも明らかに血糖値が高い場合には夜間・休日に関わらずかかりつけの医療機関を受診するようにしてください。

・自己血糖管理を行っていない方や普段通り血糖値の確認ができずに以下の症状が見られた場合は、夜間・休日に関わらずかかりつけの医療機関を受診するようにしてください。

・激しい喉の渇きが続く

・水やジュースをたくさん飲みたくなる

・何回もトイレに行きたくなる

・尿の量が多くなる

制吐薬としてのオランザピンについての注意喚起（2017 版）は日本がんサポーターティブケア学会から出されている以下のお知らせをご参考ください。

[制吐薬としてのオランザピンについて注意喚起 | JASCC 事務局,薬剤情報 | 一般社団法人 日本がんサポーターティブケア学会 \(http://jascc.jp/info/471/\)](http://jascc.jp/info/471/)

2026 年 8 月 25 日

一般社団法人日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会
制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ